

2016年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	「諷刺画って面白い？」展(第1企画展示室)			担当者名	学芸係 和南城愛理			
会期	2016年7月9日(土)～9月22日(木・土)			開催日数	65日間			
協賛・後援・協力	なし。							
巡回館	なし。							
展覧会概要	時代の政治や社会を批判的な眼でとらえ、痛烈さで時に世間を騒がせた諷刺画が、長い年月を経て美術館に展示されるとき、それらを「作品」を楽しむことができるのかを、18・19世紀のヨーロッパの諷刺画100点で考える。ウィリアム・ホガース、フランシスコ・ゴヤ、政治諷刺紙『ラ・カリカチュール』紙ほかの作品を展示した。							
ねらい・対象	昨年度、ホガースとその関連作品が多数寄贈されたことから、以前より収蔵していたが展示の機会が少なかったホガース作品と、彼に影響を受けたヨーロッパの諷刺画を合わせて展示した。 会期が学校の夏休み終了後も長く続くため、特に子ども向けとはせず、対象は中学生以上とした。							
関連催事	催事名	開催日		タイトル	講師等	参加者数		
	ギャラリートーク	8月11日(木・祝)		担当学芸員による展示解説	担当学芸員 和南城愛理	35人		
	ギャラリートーク	9月22日(木・祝)		担当学芸員による展示解説	担当学芸員 和南城愛理	18人		
	プロムナードコンサート	9月10日(土)		市内大学の学生によるコンサート	玉川大学	164人		
	夏休み子ども対象イベント	7月9日(土)～8月31日(水)		夏休み「わくわく★謎解きカード」	—	1,988人		
観覧料	一般	65歳以上	大・高生	*観覧料は第2企画展示室で開催の「小野忠重コレクション展—近代日本版画—」と合わせた料金設定とした。 *観覧者数も第2企画展示室と一体として集計した。				
	800円	400円	400円					
観覧者数 (現在)	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、65歳以上	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	3,764人	1,792人	5,556人	3,096人	902人	339人	1,219人	—人
	目標値			6,400人				
主な収入 (現在)	観覧料収入		図録販売収入		受託販売収入		その他の特定財源	
	2135.7千円		—千円		—千円		千円	
事業経費	【主な展覧会開催経費】 ・協力謝礼 5千円 ・ポスター作成委託料 329千円* ・ちらし作成委託料 286千円* ・ディスプレイ作成業務委託料 410千円 ・マット装額装業務委託料 120千円 ・作品展示撤去作業委託料 414千円 ・広告宣伝委託料 38千円* *は小野忠重展と共通経費						1,602千円	
主な広報・取材等の講評	「ダメな人」の姿 なぜ人気(朝日新聞9月23日夕刊) アートで読み解く、ユーモアと毒で時代を描いた諷刺画の楽しみ方。(BRUTUS 8月号)							
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)			
	281件	5.0%	19.0%	75.2%	企画の内容	展示作品	展示の仕方等	
主なご意見		別紙のとおり。(アンケートは第2企画展示室とあわせて集計した。)						

反省点と改善方法	予備調査	3月頃より、作家と作品に関する文献の調査を行い出品作品を選定。キャプションに掲示するため、各作品に書かれた文章を書き出し、翻訳を行った。
	作品選択	収藏品の中から、ヨーロッパの18,19世紀の諷刺画4シリーズを取上げた。シリーズをまとめて展示することで、作者が社会のどのような点を諷刺しようとしたかが読み取れるように考慮した。諷刺画が必ずしも正義ではないことを示すため、数点ではあるが、人種差別的な作例を展示した。
	図録作成	なし。以前に作成した『カリカチュール』展図録の残部と委託販売したホガース関連図書が会期中に売り切れた。ホガースについては当館のこれまでの図録に図版掲載がなく、来館者からの問い合わせを何度か受けた。小冊子程度でも、きれいな図版が入った印刷物を作成できればよかった。
	ディスプレイ	諷刺の内容を読み解くカギとなる画中の言葉や文章を翻訳してキャプションに記し、それを手掛かりに、観客に作品の内容を読み解いてもらうことを狙った。通常は作品の前に置く解説パネルを最後におき、答え合わせをしてもらうような感覚で展示した。低予算のため、以前の展覧会で使用したパネル等を再利用した。
	広報	ポスター、ちらし共に小野展と共通で制作。全く趣の違う展覧会を並べなければならなかったことで、特にポスターはインパクトが弱まり、宣伝効果を減じたと思われる。諷刺画展では美術館HP「芹ヶ谷だより」に関連記事を2度掲載した。朝日新聞に取上げられ来館者数が増えたが、掲載が終了直前だったことが惜まれる。アンケートでは展覧会内容に対しては好意的な回答が多かったが、結果的には来館者数は伸び悩んだ。首都圏の美術館は多額の予算をかけ大々的に宣伝をうっている。それに対して当館の収藏品展は広告宣伝費も乏しく、マスコミ各社に無料で案内を掲載してもらうチャンスを待つばかりである。展覧会の規模が大きく違うとはいえ、来館者を取り合う土俵は一緒である。現在の状況では予算がつくとは思えないが、そうした中で今ある手段を活かし、わずかでも効果を上げるにはどうしたらいいかを考えなくてはならない。
その他特記事項	なし。	

2016年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	「小野忠重コレクション展—近代日本版画—」(第2企画展示室)			担当者名	学芸係 滝沢恭司			
会期	2016年7月9日(土)～9月22日(木・土)			開催日数	65日間			
協賛・後援・協力	なし。							
巡回館	なし。							
展覧会概要	近年収蔵した小野忠重(1909-1990、版画家・版画史家)旧蔵の近代日本版画と文献資料のなかから、大正初期から昭和30年代までの約180点の版画と資料を紹介した。展示は「Ⅰ 1904～1923」「Ⅱ 1924～1930」「Ⅲ 1931～1945」「Ⅳ 1946～1950年代」「Ⅴ 創作版画誌」「Ⅵ 版画展出品目録」の全6章で構成した。総出品作品・資料は185点。							
ねらい・対象	第2企画展示室という狭い会場に、近年収蔵した小野忠重旧蔵近代版画と資料をできるだけ多く展示することで、小野忠重コレクションをお披露目することを目的とした。また、その特徴と意義を再考する機会とした。一般来館者を観覧対象とした。							
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数			
	館長トーク	7月24日(日)	館長による展示解説	館長 村田哲朗	15人			
	ギャラリートーク	8月28日(日)	担当学芸員による展示解説	担当学芸員 滝沢恭司	12人			
	ギャラリートーク	9月11日(日)	担当学芸員による展示解説	担当学芸員 滝沢恭司	10人			
	プロムナードコンサート	9月10日(土)	市内大学の学生によるコンサート	玉川大学	164人			
	夏休み子ども対象イベント	7月9日(土)～8月31日(水)	夏休み「わくわく★謎解きカード」	—	1,988人			
観覧料	一般	65歳以上	大・高生	*観覧料は第1企画展示室で開催の「諷刺画って面白い?展」と合わせた料金設定とした。 *観覧者数も第2企画展示室と一体として集計した。				
	800円	400円	400円					
観覧者数 (現在)	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、65歳以上	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	3,764人	1,792人	5,556人	3,096人	902人	339人	1,219人	—人
	目標値			6,400人				
主な収入 (現在)	観覧料収入		図録販売収入		受託販売収入		その他の特定財源	
	2135.7千円		—千円		—千円		千円	
事業経費	【主な展覧会開催経費】 ・協力謝礼(小野文庫整理) 170千円 ・ポスター作成委託料 329千円* ・ちらし作成委託料 286千円* ・ディスプレイ作成業務委託料 252千円 ・マット装額装業務委託料 166千円 ・作品展示撤去作業委託料 323千円 ・広告宣伝委託料 38千円* *は諷刺画展と共通経費						1,564千円	
主な広報・取材等の講評	特になし							
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)			
	281件	5%	19%	75.2%	企画の内容	展示作品	展示の仕方等	
	281件	5%	19%	75.2%	92.1%	93.4%	83.6%	
主なご意見	別紙のとおり。(アンケートは第1企画展示室と一体的に徴収し、集計した。)							

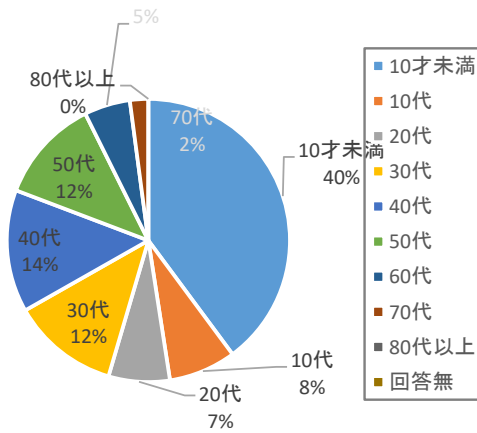
反省点と改善方法	予備調査	2009年開催の「生誕100年小野忠重展」、2012年開催の「版画家群像 大正・昭和のベスト・セレクション展」の際の小野忠重版画館での調査をベースに、収蔵した作品・資料を改めて調査研究した。
	作品選択	小野コレクションのなかで歴史的評価のある作家の良質の作品を中心にセレクションした。また、一人の作家につき多くても3作品程度に抑え、多数の作家の仕事を紹介することで、コレクションの概要が分かるように努めた。稀少価値の高い、版画誌と展覧会目録を選んで展示した。
	図録作成	なし。庁内印刷で出品リストを作成し無料配布した。以前開催した『生誕100年小野忠重展』と『版画家群像 大正・昭和のベスト・セレクション』展図録を展覧会会場に置いて参考資料とした。
	ディスプレイ	展覧会タイトル看板、あいさつパネル、章タイトル・解説パネル、キャプション、屋外柱巻きなど、最低限必要なディスプレイ用具を作成した。展覧会場の壁面を埋め尽くすように額装作品126点を設置、また展示ケースに約60点ほどの冊子類を展示して、全体として展示にボリューム感を持たせた。
	広報	ポスター、ちらし共に「諷刺画って面白い？」展と共通で制作。全く趣の違う展覧会を並べなければならなかったこと、デザインがあまりよくなかったことで、宣伝効果に難があったと思われる。同時開催の諷刺画展が朝日新聞に取上げられ来館者数が増えたが、掲載が終了直前だったことが惜まれる。町田市広報掲載とマスコミからの掲載依頼に対応して画像等の提供をおこなったが、全体としてメディアからの反応は低調だった。
その他特記事項	小野忠重コレクションの寄贈を受けている（一部購入）。内訳は小野忠重作品49点、そのほかの近代日本版画335点、創作版画誌など143点、江戸から明治初期にかけて発行の和本類2534点、戦前の展覧会目録など410点である。また、これら以外に預かっている小野コレクションの文献類に関して、タカシマヤ文化振興基金の助成金800,000円を獲得し、現在整理を進めている。	

【小野忠重コレクション】展（「諷刺画って面白い？展と同時開催」）
アンケート集計結果

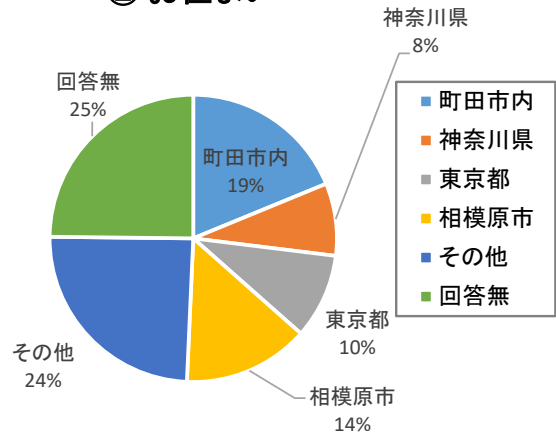
開催期間：2016年7月9日（土）～9月22日（木）

回答者数：281人（総入館者数：5,556人 アンケート回収率：5.0%）

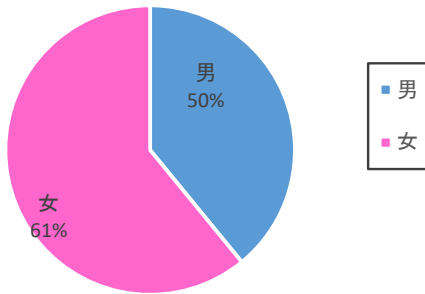
① 年齢層



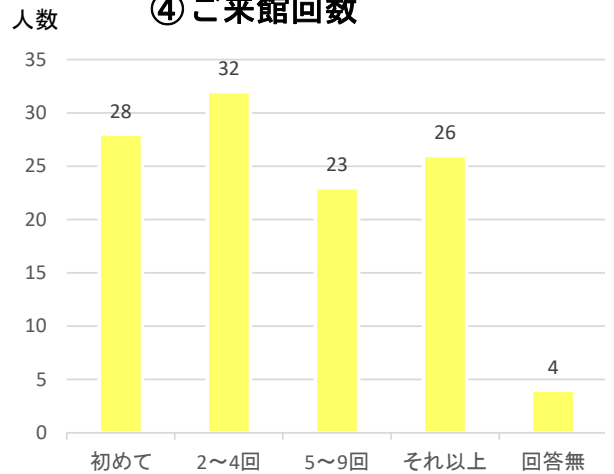
② お住まい



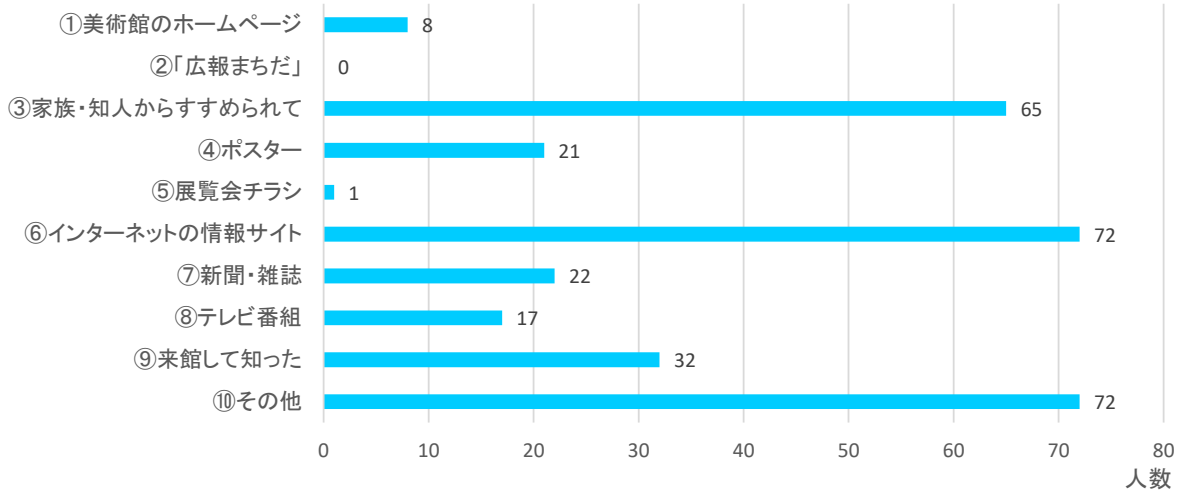
③ 性別



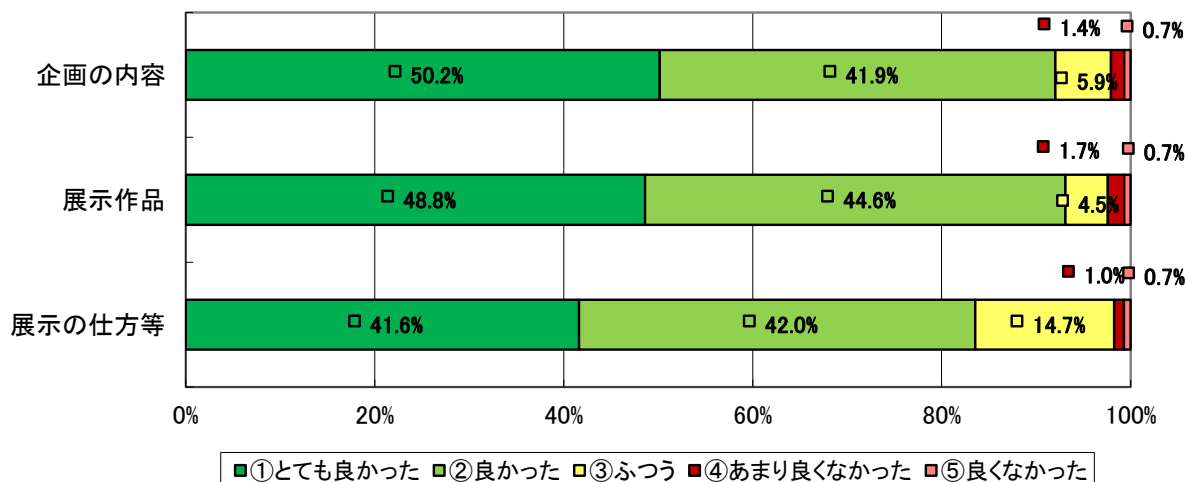
④ ご来館回数



⑤ 展覧会情報の入手



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

- ◆ 良い企画が多いのに来館者が少なくて残念。PRの努力が必要。
- ◆ 小野忠重の原画等も展示して欲しい。 ◆ 創作版画展も開催してほしい。
- ◆ ぜひ川瀬巴水の作品を展示してほしい。 ◆ 棟方志功作品が見たい。
- ◆ 戦中戦後の作品を多くみたい。
- ◆ 華やかな作品がなく、全体的に面白みがない。
- ◆ これからも個性的な企画を待っている。
- ◆ 多くの作品を見られてよかった。 ◆ 小野コレクション展は展示作品が多すぎ。
- ◆ バラエティーがあった。
- ◆ 説明がもう少しあればと思った。
- ◆ 小野忠重の作品をもっと多く見たかった。 ◆ 小野忠重作品の展覧会だと思ったのでびっくりした。
- ◆ 創作版画誌に興味があった。中身も見たかった。

近年収蔵した小野忠重(1909-1990、版画家・版画史家)旧蔵の近代日本版画と文献資料のなかから、大正初期から昭和30年代までの約180点の版画と資料を紹介した。展示は「Ⅰ 1904～1923」「Ⅱ 1924～1930」「Ⅲ 1931～1945」「Ⅳ 1946～1950年代」「Ⅴ 創作版画誌」「Ⅵ 版画展出品目録」の全6章で構成し、総数185点を出品した。出品作品は小野コレクションのなかで歴史的評価のある作家の良質な作品を中心にセレクションした。また、一人の作家について多くても3作品程度に抑え、多数の作家の仕事を紹介することで、コレクションの概要が分かるように努めた。稀少価値の高い、版画誌と展覧会目録を選んで展示した。

展覧会企画のねらいは、近年寄贈された小野コレクションをお披露目し、その概要を知ってもらうとともにその特徴と意義を感じてもらうことであった。そのために、第2企画展示室というせまい空間の壁面にとにかく大量の作品を展示しかつのできケースに多数の冊子作品や資料を展示して、全体のボリュームを出した。そのような展示によってコレクションの貴重さも感じていただけたと思う。アンケートでは、たくさん作品が見られたという回答がある一方で、多すぎるという意見も寄せられた。

このような内容の展覧会は、「地味」であるが美術館として必要な企画であると考え。メイン会場となる企画展示室1での開催はためられるが、今回のような第2企画展示室を使ったサブ企画展として、必要に応じて今後も開催を検討していかねばならないと考える。